

筑波のかえる



高次脳機能障害友の会・いばらき

2023年~~夏号~~第59号



高次脳機能障害友の会・いばらき

〒305-0817

茨城県つくば市研究学園4-13-8

TEL 080-5901-9979

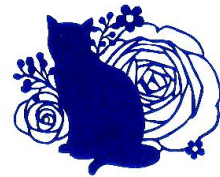
E-mail kojinouibaraki@yahoo.co.jp

H.P <http://nosonsohoibaraki.sunnyday.jp/>



《59号内容一覧》

はじめに	1
令和5年度総会	2
県南・神栖の広場	3
県北の広場	4
会員の活動を紹介します・新聞記事より	5
支援センターから	6
関係機関訪問	
古河市社会福祉協議会	7
青嵐荘療育園	8
がんばってる人	9
役員会よりのお知らせ・編集後記	10



今月の表紙は、廣田美香さんの「切り絵」です。前回、表紙に採用していただいたときは「クジラ」がテーマでした。今回は「猫」です。

「前回より、少しはち密になったかな？」と、ご本人は話していました。背景の色は「トルコブルー」。「ターコイズブルー」とも言うそうです。また、トルコの人には猫好きな人が多く、猫をとても大切にすることで有名な国だそうです。最近は異常気象が続き、猛暑日と言われる日も多くなります。今月の表紙で、少しは涼しい気分になれるでしょうか？



はじめに

「高次脳機能障害者の困難さを知ってくれてありがとう！」

梅雨の晴れ間が待ち遠しい今日このごろ、皆さま、いかがお過ごしでしょうか。今夏はコロナ定常化の流れで以前が戻りつつあり、出かけたり集ったりすることも再開できるようになっていることと思います。街に活気が出て嬉しい面もありますが、衛生予防は維持しつつ活動をしていきたいものです。

6月15日に那珂市中央公民館にて、介護支援専門員合同研修会が「高次脳機能障害についての理解を深める」をテーマに開催され、県内から170名ほどの介護職の方々が集まりました。前半は症状とその支援技術について茨城県高次脳機能障害支援センターの高橋副センター長と浅野コーディネーターから講義がされ、加えて志村大宮病院ソーシャルワーカーで高次脳機能障害支援コーディネーターの山中氏から地域支援拠点病院の体制などについての説明がされました。そして後半は茨城県介護支援専門員協会の鴨志田理事からの依頼を受けて、友の会の滝沢会長と私から当事者と家族の実情や家族会活動について講演しました。



講演中に、参加者がとても熱心に聞いておられるのを感じました。参加されていた介護職の方々は、日常のお仕事で認知症の方に関わることが多い方々ですが、高次脳機能障害やその可能性のある当事者に関わった方が半数以上おられました。なので、高次脳機能障害当事者や家族と最前線で対峙し困難さも体験されている方々に、当事者とその家族の各種の実情をお伝えし理解を深めて頂くことは、とても必要性が高く重要なことと感じました。それと同時に介護のプロフェッショナルに聞いてもらえることをとても嬉しく思いました。そして少しでもその理解が周囲の介護職の方にも広がればと思うのと、今後の介護のお仕事の中で、当事者や家族の不安や困りごとに対し、身体面や物理面のみならずメンタル面にも意識を向けて頂けるようになることも合わせて願っています。

高次脳機能障害は見えない障害と言われるほどに周囲が理解できない障害です。それ故に少しでも関心を持ち理解しようと思っている方々には感謝と尊敬を感じます。理解頂ける方を増やすためにも、そして誤解なく理解を深めて頂けるように、当事者とその家族は一般社会の有志に向けて理解のための実態の話しを続けていくことが大事なのだと思います。それこそが将来的に当事者や家族の暮らしの心持ちの質を上げていくことに繋がるのだと思いました。あらためてしみじみと考えた次第です。

(本田)

令和5年度総会を終えて

新型コロナ感染状況が落ち着いてきた5月28日（日）に、石岡市ふれあいの里ひまわりの館で開催されました。久しぶりに顔を合わせる会員の方々もいて、とても懐かしい心持ちがしました。



総会には、賛助会員でもある県議会議員の飯田智男氏も参加され励ましのご挨拶をいただきました。参加者は、正会員家族 14 名、当事者 10 名、賛助会員 4 名で、審議事項は滞りなく可決終了しました。

総会のあとは、昨年につき茨城県障害者スポーツ協会から指導に来ていただいたボッチャ指導員の方々に教えていただきながら、今回は審判の体験も交えて楽しみました。二つのコートに分かれ、それぞれ赤玉チーム青玉チームが対決します。当事者たちのコートでは、同じチームのメンバー同志玉を投げる順番をゆずりあうなど、周囲を気遣う様子が見られました。当事者会のメンバー同志でもあり、仲間意識が育ってきているのか、暖かで楽しい雰囲気の中で、時間を忘れるくらい熱中していました。

ここで歓声をあげながら生き生きとゲームに興じている当事者の方々は皆、死線をさまよい復活してきたことを思うと感無量の気持ちになりました。この後の人生においても生き生きとした時間が積み重ねられることを、願うばかりです。（丹羽）

《当事者活動》

当事者会の活動は、施設内のカフェで和やかな会話から始まりました。2 か月ごとに開催している当事者会と同じように、総会の当事者会も参加者の名前を書いた「ネームホルダー」をつけるのはどうか？と、当事者から提案がありました。全員一致で



ネームをつけたところで、恒例となったトランプの「ババ抜き」がスタートしました。ひとり、またひとりと上がっていきます。最後の二人の戦いになり、「ババ」が2枚あることに気がつきます。最後まで「ババ」がどのカードかわからずみんなで大笑い。

支援者の加藤先生のさり気ないサポートで、あっという間に楽しい時間が過ぎました。参加者同士で支えあう姿もあって、和気あいあいの雰囲気の中でトランプや飲み物を片付けて、「ボッチャ」の会場に向かいました。（飛田）

県南の広場

令和5年度が始まったと思ったら、もうすぐ夏休みですね。県南では、4月26日に第1回目のおしゃべりサロンを開きました。



参加者は5名。お茶を飲みながら、昔のこと、畑仕事のこと、とりとめのないおしゃべりが止まりません。でも、やっぱり一番気になるのは当事者のことです。こんな時にどうした、あんなときにあんなこと言ってた、と普段はあまり話せないことを、気兼ねなくゆっくり話し合えるのも良いひとときなのかもしれません。

偶数月と言うことで、6月には29日におこないました。参加者は今回も5名（メンバーは違います）。なかなか人数が増えないのが悩みの種ではありますが、今回は、いつものように家族間での問題点など話が進んでいくうちに、自分たちのこれからの人生についての話になりました。当事者のことばかりではなく、ご自分の年齢や病気、仕事など様々な問題ある中で、皆さん多くの趣味や習い事をし、生き生きとしていらっしゃるということがわかりました。将来は聴講生になって勉強する予定という方もいて、みんなでエールを送りました。

もちろん今それどころではない方も多くいらっしゃるでしょう。でもどんな時でも自分の人生に夢を持って、進めていけたらいいですね。皆さんも是非夢と現実（笑い）を語りにお出でください。

5月の県南集会は、総会がありましたので、行いませんでした。7月15日には、県南集会として、家族と一緒に映像を見ながらいろいろ話し合う会が開かれます。とても分かりやすい映写会ですので、どうぞ参加くださいね。

案内は届いていると思いますが、8月には16日に、またおしゃべりサロンを開きます。お盆でもやりますよ。どうぞ参加ください。お待ちしております。（浅野）

神栖の広場

昨年の8月より、ある相談者の障害年金取得における受給資格の証明をどのようにすれば良いのか、問題点を皆で考えてきました。

主治医や高次脳機能障害支援センターのアドバイスのもと試行錯誤してきましたが、5月の神栖集会では結果として「専門職（労務管理士等）に依頼するしかないのでは」との回答でした。

・1番のネックは、膨大な年月の経過による証明の難しさ

・6月 相談者1名 会員3名 支援センター（岡野 CN、市毛 CN）

証明の難しさにかつかりしている相談者こそにも、いかに少しでも力ながら支援できれば・・・との思いです。（宮内）



《神栖集会の報告》

4月	相談者1名	会員2名	社協2名	支援センター	（岡野 CN、田中 CN）
5月	相談者1名	会員3名			
6月	相談者1名	会員3名	支援センター	（岡野 CN、市毛 CN）	



3つの集会が開催されました。ご報告します。

令和5年度 第1回県北集会 4月16日(日) 13:30~14:30

場 所 : 水戸市福祉ボランティア会館 大研修室

内 容 : ポッチャを楽しもう!!

参加者 : 12名(当事者1名、家族2名、支援者5名、学生4名)

以前企画して「おもしろい!」「またやりたい!」の声が多かったポッチャ。今回も、投げる人、見て応援する人、共に夢中になりました。

優勝は青チームでしたが、どの対戦もすばらしい試合でした。みんなナイスファイト!

『ポッチャ』は楽しい!! またやりましょう。



令和5年度 第2回県北集会 6月18日(日) 13:30~14:30

場 所 : 水戸市福祉ボランティア会館 大研修室

内 容 : 季節のフラワーアレンジメント

参加者 : 13名(当事者1名、家族3名、支援者5名、学生4名)

講師に安藤和代先生をお迎えして、フラワーアレンジメントを楽しみました。

ひまわりやカーネーションなど、4種類の扱いやすい花や葉で作りました。はさみで茎を切って長さを調整したり、間隔のバランスをとったり…先生の話に耳を傾けながら手先に集中(*^_^*)

どの方の作品も素敵にできました。会場はきれいなアレンジメントとやさしい笑顔に包まれました。



令和5年度 第1回家族の集い 5月26日(金) 10:00~12:00

場 所 : 水戸市福祉ボランティア会館 小研修室

参加者 : 5名(家族2名、支援者1名、県支援コーディネーター2名)

今年度の支援事業についてのお話、家族の近況報告等を行いました。

会員の活動を紹介します

《本を作りました》

会員の小川伸一さんが、自作の本を出版しました。気軽に手に取れる、「手のひらサイズ」の本で、「**高次脳機能障害 回復のために必要なこと 40**」「**後遺症が残った時の言語リハ**」「**高次脳機能障害 失語症 38年**」「**高次脳機能障害者の一般就労への挑戦**」の4冊です。



最初のきっかけは、脳科学者ジル・ボルト・テイラーの「奇跡の脳」という本に感動し、わかりやすく自分の解釈を添えてみんなに読んでもらいたい・・・と思ったことだそうです。書くことによって、頭の中が整理され、自分の障害についても再確認できたそうです。

小川さんはずっと自分の障害を隠して生活をしてきました。ある大企業で一般就労にもついていたが、ミスが重なるようになり、差別も受けました。ある時、隠すことに限界を感じ、障害を開示し、行政の支援を受けるに至りました。開示したからと言って、合理的配慮が十分にされたわけではなく、差別発言や嫌がらせは続いたといいます。そんな周囲の無理解に対してや、同じ立場の当事者に対する応援の意味で、本を出そうと思ったのかもしれませんが。

小川さんは自分の失語症についても自覚をするようになりました。開示したことにより始まった様々な「啓発活動」を通して多くの仲間もできました。現在は「失語症者のための楽しい朗読教室」に参加し、7月1日には東京品川のホールで朗読劇の発表会にも一員として堂々と出演されました。

多方面に精力的な活動をしている小川さんを、これからも応援していきます。

新聞記事から

茨城新聞2023. 4. 25より

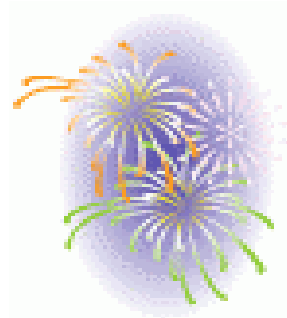
『高次脳機能障害巡り情報提供体制を拡充』・・・「治療や仕事復帰支援」

高次脳機能障害巡り情報提供体制を拡充
2023年4月、治療や仕事復帰支援
事故の後遺症などで記憶や行動に支障が出る「高次脳機能障害」を巡り、厚生労働省はリハビリのできる医療機関や就労支援事業の
情報提供体制を拡充する
新事業を4月から開始した。患者の治療や仕事への
復帰を手助けするのが狙い。2023年度当初予算案に
関係経費1億5千万円を盛り込んだ。
高次脳機能障害は病気に起因する場合もあり、日常生活にさまざまな影響が及ぶ。厚労省の16年推計によると、
診断された人は約32万7千人。事故などの治療後、必要な情報を得られずに
継続的なリハビリや就労関連の支援を受けられないケース
が出ている。
新事業は、都道府県がリハビリ
のできる医療機関や、実績のある
就労支援事業所などを取りま
とめ、ホームページやパンフレットで周知する。実施するかどうかは
事業を担う都道府県の判断に
任されるが、行う場合は
国が経費の半額を補助する
仕組み。都道府県は既



に、病院や福祉施設に「支援拠点」を設け、本人や家族の相談に応じたり、各種サービスの利用をサポートしたりしている。ただ拠点の数がまだ少なく、国は新事業を行うことで援助体制を一層充実させたい考えだ。

新任職員の紹介



井出 政行センター長

今年度4月より高次脳機能障害センター長に就任しました井出と申します。これまで精神科医として筑波大学附属病院などで精神疾患の診療に携わって参りました。その中で高次脳機能障害の方の診療することもあり、一人一人の困りごとが違うため、周囲に理解されにくい難しさを感じています。これからは皆さまの社会復帰に少しでも力添えできるよう、その人のニーズに合った支援をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

田中 雅明

今年度4月より高次脳機能障害支援センターの職員として勤務することになりました田中と申します。職種は行政職で、これまで障がい者福祉行政に携わることがなく、初めて聞く言葉等も多く戸惑っています。まだまだ、支援に対し知識・経験が不足しているような状態ではございますが、少しでも早く経験を積み、皆様のお力になれるように努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

市毛 真由美

今年度6月より高次脳機能障害支援センターの職員として勤務することになりました市毛と申します。前職は、回復期病院での医療ソーシャルワーカー業務や児童福祉業務に携わっておりました。

高次脳機能障害についての知識はまだですが、友の会の皆様との交流を通じ学ばせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

関係機関訪問 ②②

古河市社会福祉協議会



住所 古河市新久田271番地1

電話 0280-47-0150

- ◇ 緑に囲まれた閑静な地区に、社協の入っている「古河福祉の森会館」は、ありました。広々としたエントランスを直進すると、社協の窓口がありました。取材に対応してくださったのは事務局長の安部一枝さんと相談支援専門員の森田和義さんでした。

障がい者の相談支援事業は今年度の新規事業とのことで、森田さんはおひとりで奮闘されているようでした。

- ◎ 障がい者支援の一つとしては、デイスティ事業があります。これは、障がい者本人の社会参加や家族の方々の負担軽減等を目的としています。内容としては、障害のある方々や子供たちの緊急的または一時預かりを行うというものです。



- ◎ もう一つの障がい者支援としては「指定居宅介護事業」があります。これは、ホームヘルパーが自宅を訪問し、障害者自立支援法に基づいた必要なサービスを行い、在宅での生活が安心して送れるように援助をするものです。対象となるのは、障害をもち、自宅で介護を必要とする状態にあって、市に障害福祉サービスの申請を出された方です。

サービスの内容としては、掃除、洗濯、調理、買い物などの「家事援助」や食事介助、清拭、おむつ交換、排泄介助などの「身体介護」となります。

今年度から始まった相談事業に取り組む森田さんは、試行錯誤を重ねながら大変苦勞をされているようでした。脳血管障害により高次脳機能障害になった50代の男性に関わっているようですが、「働きたい」という気持ちはあるものの、なかなか周囲に理解してもらうのが大変とのことでした。森田さんも、高次脳機能障害について勉強しながら、適切な支援ができるようになりたいと意欲的に語られました。

事務局長の安部さんも、老人介護がご専門とのことでしたが、高次脳機能障害にも関心をもたれ、「適切な医療とケア」が必要と力強く語られました。

関係機関訪問 ⑳

青嵐荘療育園 通所事業所

住所 古河市上大野698

電話 0280-98-2782



◇ 広い敷地内に大きな建物が数棟点在している中の一番新しい建物が「青嵐荘療育園」でした。広い玄関を入ると、明るいリハビリ施設があり、何人かの方がそれぞれのリハビリに励んでいました。子どもたちも沢山訪れるので、カラフルな遊具が目立ちました。お話は理学療法士の小久保望さんに伺いました。オレンジのユニフォームがとても似合っていました。



◎ 現在、4名の方が 自立訓練（機能訓練）に利用しています。うち、高次脳機能障害の方は1名です。「もっと歩けるようになりたい」「自分でできることを増やしたい」等の相談や問い合わせを受け、利用開始となります。理学療法士や言語聴覚士による訓練や、専門職と考えたオリジナルメニューの自主練習など、個別プログラムにより自分のペースで訓練を進めます。最近では料理やドライブシュミレーション等、生活に直結した訓練に取り組む方も見られます



◎ 「個別プログラム」に対して、「集団プログラム」の時間も設定してあります。集団で様々な活動を行いながら身体機能や体力の向上を図っていきます。仲間と一緒にすることにより、意欲の向上が見られたり、対人関係が学べたりと、自立につながる重要な時間と考えています。機能訓練のスタッフは現在4名ですが、「障害は残っていてもみんなと同じような生活ができるよ。だから一緒に頑張りましょうね。」という熱い思いを伝えながら支援に励んでいるそうです。

小久保さんはこの仕事に就かれて今年で10年目になるそうです。話をお聞きしていると、この仕事にける意欲も知識もバッチリで、とても頼もしく感じました。（でも、見た目はまだ可愛いお嬢さんです）

帰りに見かけたホワイトボードの内容に、びっくりしました。「社会生活カプログラム」として設定してあるそうですが、「自分たちがどのような制度や福祉サービスに守られて生活しているのか」などを基本的なことから学ぶ時間をとっていたのです。ともすると、当事者の方は受け身の生活になりがちですが、決してそうではいけないんだなと、ハッと気づかされた内容でした。小久保さん、すごい方です。

“東京で活躍してます”

東京都板橋区 細川 晃史さん

- ◎ 晃史さんのお話をお聞きしたのは、当事者会に参加する前の時間でした。晃史さんは現在東京在住ですので、土浦まで出て来るだけでもきっとお疲れだったと思いますが、誠実に丁寧にお話をしてくれました。



- ◇ 晃史さんは、現在41歳。東京には、もう20年くらい住んでいるそうです。晃史さんが高次脳機能障害になったのは、22歳の時の交通事故が原因です。当時、晃史さんは自宅のある小美玉市から栃木県の日産系の自動車整備士専門学校に通っていました。その途中で起こった車同士の交通事故でした。とても大きな事故で、意識が戻らない期間もありましたが、転院した病院での高圧酸素治療で意識が戻りました。その後も、理学、作業、言語等、様々なリハビリに精力的に励み、就労に向けて県リハビリテーションセンターに入寮し、パソコンや水泳等、持ち前の頑張りを取り組みました。当時、水泳の全国大会で優勝したことは、晃史さんの自慢の一つです。（これはお父様から聞いた話です）
- ◇ 晃史さんの頑張りや、その後も続きます。県リハを出てから「東京都障がい者職業能力開発機構」に入り、主にパソコンの訓練をしました。2、3か月後「資生堂プロフェッショナル」という会社に就職が決まり、アパートも一人で探しました。それ以来、晃史さんはずっと一人暮らしをしています。
- ◇ 一人暮らしで困るのは、家事で苦手とする「掃除」だそうです。（あまり得意な人はいないかもしれませんが）小さいころから音楽を聴くのが好きな晃史さん。特に好きなジャンルは「ジャズ」だそうです。

晃史さんは、当会の当事者会にも時々参加してくださっていますが、東京の「若い失語症者の集い東京版」のメンバーとしても活動をされています。ホームページを開けると、晃史さんは東京版の三代目の会長として名前が記されていました。この会は、全国的な当事者の会で、言語聴覚士の方が立ち上げた会だそうですが、晃史さんたちも東京版の活動では奮闘を重ねてきたことと思います。

2月に1回の定例会を実施しているそうですが、やはり「コロナ」の関係で、現在はズームで行うことが多くなっているようです。

お話を伺っていると、とても誠実な方という印象を持ちました。一つ一つの質問に、常に丁寧に答えてくださいました。お父さんともとても気が合い、男同士で行動を共にすることが多いそうです。

お知らせ



今後の行事予定（7月～10月）

- | | | | | |
|-------------------|----------|-----------|------------|------------|
| ◇家族会交流室 | | ★8月11日(金) | ★9月8日(金) | ★10月13日(金) |
| ◇県北地区 | 県北集会 | ★8月6日(日) | ★10月8日(日) | |
| | 家族の集い | ★7月21日(金) | ★9月22日(金) | |
| ◇神栖地区 | 神栖集会 | ★7月26日(水) | ★8月23日(水) | ★9月27日(水) |
| ◇県南地区 | 県南集会 | ★7月15日(土) | ★9月未定 | |
| | おしゃべりサロン | | ★8月16日(水) | ★10月19日(木) |
| ◇当事者会 | | ★9月未定 | | |
| ◇役員会 | | ★8月8日(火) | ★10月17日(火) | |
| ◇勉強会(オープンカウンセリング) | | | ★8月20日(日) | |
| ◇茨城県リハビリ講習会 | | ★9月17日(日) | | |



役員会報告

- 4月18日(火) (1) 各集会、交流室、当事者会等についての報告
(2) 令和5年度の総会運営について
(3) 補助金の申請について
- 6月20日(火) (1) 各集会、交流室、当事者会等についての報告
(2) 今年度の事業について
(3) 令和5年度総会について総括

交流室からの報告

- 4月14日 相談者2名(電話相談4件) 会員5名 賛助会員1名
支援センター⇒高橋副センター長・田中CN
県障害福祉課より西野副参事・薬師寺主事(新任挨拶)
- 5月12日 相談者なし 会員5名 賛助会員1名
支援センター⇒浅野CN
- 6月9日 相談者なし 会員6名 賛助会員1名
支援センター⇒高橋副センター長・浅野CN

編集後記

総会の当事者活動が終わった後、支援で入ってくださった加藤先生(言語聴覚士)が「今日の私は何もすることがなかったんですよ。本当に自然な形で助け合いができていて、出る幕がありませんでした。」と、嬉しそうにおっしゃっていました。2か月に1回の当事者会を重ねるうちに、いつの間にか仲間意識が芽生え、絆ができていたのでしょう。会の行事も、当事者の皆さんが自ら計画を立て、実行する時もそう遠くはない気がします。(石)